

会議名	第3回 金シャチ横丁第二期整備 博物館ゾーン整備基本構想検討懇談会
日時	2023年3月17日(金) 午前10時00分～午前12時00分
場所	名古屋市公館 レセプションホール / WEB 会議
参加者	(構成員) 木下直之委員、佐々木雅幸委員、千田嘉博委員、田沢裕賀委員 (オブザーバー) 大竹正芳委員、北折真人委員、木村広聖委員 (名古屋城総合事務所) 上田所長、鈴木室長、石山係長、中野主査、林技師 (名古屋城調査研究センター) 村木副所長、原主査、朝日学芸員
<p>&lt;議事内容&gt;</p> <p>1. 開会</p> <p>【事務局】ただいまより第3回金シャチ横丁第二期整備博物館ゾーン整備基本構想検討懇談会を開催致します。私は本日の司会を担当させていただきます、名古屋城総合事務所保存整備室長の鈴木でございます。よろしくお願い致します。</p> <p>2. あいさつ</p> <p>【事務局】開催にあたりまして、名古屋城総合事務所長の上田よりご挨拶を申し上げます。</p> <p>【事務局】改めまして、ご紹介いただきました所長の上田です。本日は年度末の大変お忙しい中、ご都合つけていただきありがとうございます。</p> <p>本日は、第3回の博物館基本構想検討会ということで、昨年来、皆様方にご協力いただきました基本構想に関しまして、本日をもってなんとか完成にこぎつけたいと考えております。</p> <p>この構想に関しまして、私ども名古屋市といたしましては、名古屋城の価値や魅力を市民や国内外の方に広くお伝えするとともに、またそれをしっかり後世に繋いでいくことを目的としまして、また博物館を中心とした博物館ゾーンのエリア全体を名古屋市の歴史文化観光拠点となる、こういったことを目指して今後しっかりと整備を進めてまいりたいと思います。本日限られた時間ですが、そうした中でこれまでの議論をしっかりと踏まえたご意見を忌憚なく頂ければと思います。本日はよろしくお願いいたします。</p> <p>【事務局】構成員の古池委員と高田委員におかれましては、本日所要によりご欠席とお伺いしております。</p> <p>【事務局】続きまして本日お配りしております資料を確認いたします。お手元の資料をご覧ください。</p> <p>会議次第、それから出席者名簿を各1部配布しております。本日は会議資料としまして、資料1と2を配布しております。資料1が概要版ということでA3の資料です。最後は9ページで9枚の資料になっております。それ</p>	

から資料2が基本構想の完成版ということでA4の冊子です。最終ページが68ページになっていれば正しいものです。以上落丁等がありましたらお申しつけください。

### 3. 議題

#### (1) 博物館ゾーン整備基本構想について

##### ○本日の議論について事務局より説明

【事務局】 それでは議題にうつらせていただきたいと思います。最初に本日の議論につきまして、少し説明させていただきます。

先ほどお話しいたしました。配布している資料のうち1が概要版、2が完全版となっております。説明は概要版に沿ってさせていただきますが、議論は、完全版の方から質問やご意見していただいて構いませんのでよろしくお願いたします。それから説明の仕方についてですが、最初に前回にお見せしております、1章から4章までについて説明させていただきます。ご意見をお伺いしたいと思います。本日最終でございますので、オブザーバーの方におかれましてもご意見があれば、一緒にディスカッションをするかたちでお願いしたいと思います。その後、新しい部分である5章、6章につきましても同様に進めたいと思います。

それでは資料の1章から4章につきまして、説明をさせていただきます。

##### ○資料1に基づき、第1章から第4章まで事務局より説明

【事務局】 まず、資料1の第1章から第4章までの部分についてご説明いたします。

第1章はじめに（前提条件の整理）の「1はじめに」でございます。

（2）本事業が必要とされる背景としまして、改めて整理し直し、3点に集約いたしました。特別史跡名古屋城跡の本質的価値の理解促進への取り組みからみた背景、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の魅力向上への取り組みからみた背景と名古屋観光からみた背景と記載しています。また、（3）本事業の目的につきましても、改めて整理いたしまして、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の理解促進と魅力発信及び後世への継承、近世以降の名古屋の歴史や日本の歩みの理解促進、日本の城郭の価値や魅力の発信、名古屋観光の魅力向上の4点を掲げました。

前回の懇談会で、名古屋城の魅力とは何かということをお聞かせしました。様々な魅力があると思います。近世城郭築城技術の完成期に、公儀普請により築城された城郭であること、徳川家康の意思を強く反映し、徳川幕府の対豊臣方への備えという当時の社会情勢を示す城郭であること、現存する遺構や詳細な史資料により築城期からの変遷をたどることができる城跡であること、また現在の名古屋へと続く都市形成のきっかけとなった城跡

であり、これまでの名古屋の歴史と強く結びついた城郭であること、そして現代では市民の心のよりどころ、名古屋のシンボルとして市民に親しまれる存在となっていること、さらには現在でも修復や整備が進み、特別史跡として本来の価値を再び取り戻していること、このような魅力を多くの人に伝わるように工夫し、後世に継承していくことが求められていると思います。

次の（４）博物館に求められる新たな役割と「２ 歴史の変遷」については、前回の資料から大きな修正点はございません。続きまして、「３ 現代における名古屋城」でございます。（１）歴史・美術・建築の観点からみた名古屋城の意義、（２）市民からみた名古屋城の価値・意義につきましては、こちらも大きな変更点はありません。

（３）今後の名古屋城及びその周辺では、本文中、修正した内容はありますが、左下の【名古屋城を巡る整備計画・発展のイメージ図】は前回の懇談会でのご指摘を踏まえ、変えています。前回よりも、より名古屋城を中心としていることが分かりやすいイメージ図としておりまして、名古屋城から名駅地区と栄地区それぞれハの字のような軸を引き、「現代と近世の往還軸」「新しい繁栄軸」と設定しました。特に、名古屋城と名駅地区とを結ぶ「現代と近世の往還軸」につきましては、両者の間に円頓寺地区や四間道、伊藤家住宅、堀川の水運等、名古屋城とも関連深い資源がございますので、こういった施設も含めた「軸」として捉えることで、現代と近世の間の時空を連続的に往来するようなイメージで考えています。

「４ 整備候補区域の条件の整理」でも本文中の修正はありませんが、右下の【整備対象区域の周辺環境】の図を修正し、公共機関や車からの交通アクセスポイントを追記しています。

続きまして、第２章 整備にあたっての基本的な考え方についてご説明します。この章の中で大きな変更点はございません。この部分はこの基本構想の中で核となる部分ですので、改めて簡単に説明しますと、「１ 博物館ゾーン及び名古屋城博物館（仮称）に求められる機能・役割」では、本事業の整備候補区域、すなわち「博物館ゾーン」全体の機能と、博物館ゾーンの中心的な存在となる「博物館」そのものの役割、それぞれを検討しました。そして、博物館ゾーンに求められる機能を「知の拠点」と「観光の基点」として捉え、名古屋城を基点とした歴史を、ストーリー性をもって伝えていく、当地域における「歴史文化観光の拠点」を目指していくこととしました。このような機能や役割を踏まえ、博物館ゾーンのコンセプトを【名古屋城から始まる歴史探訪のゲートウェイ】とし、博物館のコンセプトを【城に学び、城と歩む】と掲げることといたしました。

最後に「３期待される効果」です。博物館ゾーンの整備により期待される

定量的効果の部分を追記しています。

続きまして、第3章 博物館ゾーン概要についてです。この章も大きな変更点はございません。主な修正点を申し上げますと、5 ページの左下の表

【近隣の博物館との差別化】を説明している表ですが、前回から「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」と「名古屋市市政資料館」を追加しております。また、6 ページの「3本博物館に必要な機能」の中で、前回の懇談会での指摘を踏まえ、一段落目の最後ですが、展示機能等のベースとなる「収集保存機能」「調査研究機能」について特に充実を図ることが求められると明記しました。

続きまして、第4章 展示方針についてご説明いたします。この章も大きな変更点はございません。歴史軸に沿った「名古屋城史」と「日本城郭史」を二本の主要な縦軸に据え、「名古屋城史」に関しては空間構成に沿った展示を工夫する等、空間的な広がりや横軸とした展示構成を目指してまいります。展示の方針や全体構成、展示手法に工夫を凝らし、様々な背景を持つ来訪者に満足していただける内容を検討していきます。

#### ○資料1の第1章から第4章までに基づき、質疑応答

【事務局】先生方、ご意見や更なる修正がございましたらよろしくお願いいたします。

【佐々木委員】いよいよコロナも収束していったらインバウンドが本格化して増えてきますね。今回の名古屋城博物館あるいは天守閣もそうなんですけど、観光客あるいは入場者が増える中でインバウンドの海外の観光客の割合をどの程度考えているか、ここでは出ていないように思いました。

3ページだったかな、天守復元後の入場者が366万人とありますよね。内訳がどうなっているのか。国内と海外でどういう割合かあったらいいなと思っていて、基本的に博物館の展示のやっぱり英語ないしいくつかの言語での表記というところに当然関わってきますから。私は京都の二条城に関わっていたが、英語表記がまるでなっていなかったのが随分と改善をしました。ですからインバウンドが本格化することに合わせて観光客の予想の数値と、どのように伝えるかということについて何か触れていただきたいなと思いました。それから、例えば3ページの左の下の図の中で、歴史軸をきちんと入れてもらっていることはいいですが、9ページの市全体の観光軸では「道が狭く、途中で歓楽店があり”線”として活かしづらい」とありネガティブな表現になっています。道が狭いというのはむしろ活かしやすいということもあるし、途中で歓楽店があるというのも賑わいが健在しているということで、もう少し前向きな表記がある、主観的な表現になっていると感じる。これからインバウンドが増えたときにその辺りどう捉

えていくのか。特に名古屋の場合は、ロサンゼルスのようないわば自動車産業の都市のようになっているが、実はそうではない。歴史的なゾーンがあり、歴史軸がある場所である。その中心に名古屋城があるということを今回きちんと浮かび上がらせる、それによって名古屋の都市の重層性が浮かび上がる。最近の文化観光の視点では、真正性、本物性、オーセンティシティが重要である。せっかく天守を本格再建するのだったら、そのことをもっと活かせるようなストーリーがほしいなと思った。

**【事務局】** 佐々木先生ありがとうございました。2点いただいたかなと思ってます。

まず、1点目の外国人のインバウンドのお客様の関係ですけれども、私たちとしても外国人の方に来ていただく、あるいはすでに来ていただいております。今後博物館ゾーンを整備することで来訪される人数の想定として、インバウンドを当然見越していきますし、そういった方々に楽しんでいただけるような整備を進めていきたいと思っております。実際、人数をどれぐらい想定しているかですが、資料1の概要版には記載してませんが、資料2の方に直近の外国人入場者数の内訳を参考資料に載せています。58ページ、59ページの参考2です。ただ、なかなか全員お客さんにどこから来ましたかとはなかなか聞けませんので、あくまで目視で集計ということでございますが、平成18年度から集計をとっています。年々入場者数が増えておまして、令和元年度の2019年度におきましては、総入場者数が703万人のところ、35万人程と17~18%という割合で外国人の方に来ていただいている状況です。最近は特に東南アジアですとか、アジアの方から増えている実感があり、今後もこの傾向が続くのではないかと見込んでいます。

2点目ですが、旧来の繁栄軸として、名古屋城と熱田神宮を結ぶ軸をどう活かしていくのかについてですが、先生がおっしゃっていた箇所はサウンディング調査での企業からの意見となりますが、私たちとしても本町通を活かしていくのが課題かと思っております。実際に金シャチ横丁構想においても本町通をどう活性化していくのかということは課題として挙げておりますので、街づくりの観点からも調整が必要かと考えております。

**【木下委員】** 全体的な感想ですが、限られた議論の中で一応方向性をきちんと示せたのではないかと考えています。この会議で示した方向性は何かと考えると、当初第1回の時に金シャチ横丁の構想がいろいろと説明されたんですが、もともと金シャチ横丁の整備計画の一環ですよね。そういう意味ではベースに観光というのは非常に大きくあると思います。ただ一方で名古屋城の天守閣の中で展開してきた博物館としての活動の実績、情報や資料など様々な蓄積がある。これをきちんと継承して発展させる。という2つの問題をどうこの新しい博物館の構想の中に盛り込むのかというのが最大の課

題だったように思います。動きの発端としては観光があったとは思いますが、やはりきちんと研究に基づいた施設としていくべきであるということは、きちんとこの構想の中に盛り込めたのではないかと思います。今申し上げた方向性を端的に示す言葉、4ページにある「城に学び、城と歩む」については、少し議論を重ねながら落ち着き、非常に分かりやすいと思います。

その一方で2つ気になることがあって、1つは、この博物館は名古屋城だけでなく日本の城郭について学ぶ、あるいはそのことを知る場であるということを打ち出す言葉が欠けていると思います。構想の1ページの最後で強調されたんだけど、本事業の目的の3つ目の日本の城郭の価値や魅力の発信について、この性格を端的に示す言葉はまだ打ち出していない。しかし、今後これを実現させていくときに、新しい博物館はどういうものかというのを一般にアピールする時に必要になってくる。単純に日本城郭史の博物館ではすまない、それに目をむけることによって、より一層名古屋城の価値を確認するという方向だと思いますので、これは検討課題としてまだひとつ残されていると思います。もう1点は、3ページ、4ページのあたりが一番重要ですね。新しい博物館がどういうものであるのかということを示している。それから、そのためにどう展示するのか、どう運営するのかということがその次の段問題として盛り込まれています。どういう博物館であるべきなのかというところで、キャッチコピーというか目につく言葉として「城に学び、城と歩む」というのはいいんですけど、3ページのところにある歴史文化観光拠点を目指すという、この歴史文化観光拠点という言葉は、言葉自体はいいと思いますが、もう少し練り、中身をきちんと説明できないといけないなと思います。歴史文化観光拠点の説明が不十分ですね。歴史性、場所性あるいは知の拠点、観光の基点という説明に止まっている。そもそもなぜこの言葉に収斂してきたか。1つは佐々木先生もおっしゃってましたが、文化観光という言葉が重視されている。これは法律に基づいた概念なので、文化観光拠点という言い方が正統化されてますよね。一方で博物館法の改正やICOMの博物館の定義が変わってきた。そうすると文化観光拠点としての博物館とはどうあるべきか、その流れのなかで名古屋城博物館はどういう博物館であるべきなのかということは今考えるときです。従来の観光概念とは全く違う文化観光であり、観光はこれまでは名所というかそういうところに観光客を呼びこむこととして受け止められたが、文化観光というのは、どこかに足を運ぶということだけではない。例えば、博物館を訪れることによって過去の文化にふれていくこと自体が文化観光だと思いますので、この言葉をどういうふうにきちんと示していくのかというのは大きな課題だと思います。その時

にこれはなぜ歴史文化観光拠点になったのかというのは、あまり議論しなかったような気がするんですね。文化観光という言葉に歴史をつけただけのような気がする。ひょっとすると、歴史拠点、文化拠点、観光拠点のつもりでこの言葉を使われているのかとも思うので、もう少し考える必要があると思います。方向性としてはうまくまとまってきたなと感じています。以上です。

**【事務局】**ありがとうございます。日本の城郭の価値や魅力の発信の部分の端的に示す、これはやっぱりこの博物館が目指している大きな部分だと思いますので、この先も常にそのことを考えながら検討を続けていきたいと思えます。歴史文化観光拠点について、確におっしゃるとおりこの言葉について、あまり深く議論していないというのが正直なところで、この先、この言葉が適切なのかというところから考えていきたいと思えます。文化観光は大事なことだと思いますので、一般の観光地を見に行く観光ではない、学びの旅のようなものだと思っております。それにこの歴史という言葉がどうしてついてくるのかというのも、我々としても大事にしていきたいところですよ。

**【事務局】** 私たちも内部で議論していても観光の部分と、博物館事業といいますか、歴史文化にあたる部分をどうしても分けて考えてしまいがちで、博物館は博物館で考える、観光は観光で考えるというふうになりがちなので、先生のご指摘をうけて文化観光というものができるだけ一つのものとして扱えるよう意識してすすめていかないといけないと考えております。引き続きよろしくお願いいたします。

**【木下委員】** さらに具体化していく中で、もっとコンパクトな1枚ものの構想案が必要になってきますよね。だから、概念・言葉の整理が必要だと思います。3ページの歴史文化観光拠点にある知の拠点、観光の基点、こういう端的な言葉を整合させないといけない。もしA4の1枚にまとめると、結構バラバラな言葉が並ぶんじゃないかな。それはこれからの課題かと思えます。

**【千田委員】** もう既に先生方よりいろいろとお話がありましたけど、議論を踏まえて、これから検討すべきことが整理された、非常に理想的な基本構想になっているのではないかと感じています。

まず、細かな箇所の指摘からですけど、1ページの歴史の変遷（名古屋城及び対象想定区域）について、名古屋城の築城は、慶長15年よりなっていますが、「近世名古屋城」であることがわかる方が良いかと思えました。あと、7ページの展示ストーリーの考え方の図の名古屋城史の歴史軸からの点線が天下人の城とつながっていますが、これもさきほどと同じ問題で、近世名古屋城以前の名古屋城があるということであると、少なくともこの点線は、戦国城郭の発展と花の御所と守護所の間あたりから延びる

ものではないでしょうか。近世の今見ている名古屋城はもちろんメインになるが、展示の基本的な考え方として、それ以前の前史も含めて名古屋城を理解していくということを考えると、大事なところだと思います。

全体の基本構想としましては、今、各地で城を活かして、知的な観光の拠点としても、それから交流人口を含めたにぎわいの場として城が果たす役割を重視されている。最初にご指摘がありました、海外の方も侍の城を訪ねる、見学するということが、大きな観光のポイントになっている。例えば、観光庁でもすすめている城泊。あれは非常に裕福層だけを対象にした、通常天守に侍は泊まっていなかったので天守に人を泊めることが本当に観光財源として真正性を持つ体験になり得るのか疑問はありますが、お城が目ざされていることの現れであろうと思います。そういった中で、例えば熊本城の城彩苑では、お城とセットでにぎわいの場をつくり、その中にガイド的な施設がありますが、必ずしも調査研究、収蔵とは結びついてはなくて、楽しく熊本城のことがわかるという導入としての機能は十分果たしているが、熊本城のことが学術的なことを含めてわかるか、あるいは熊本城の日本の城の中での位置づけがわかるかという、そこまでの役割はもっていない状況かと思っています。それ以外も例えば、お城を広域に整備しているところでいいますと、同じ九州の肥前名護屋城ですね、そこも特別史跡として整備をして、拠点施設として名護屋城博物館をもっておられますが、なかなかにぎわいの場としては、地理的な要因もあり難しかったりする。城に対しての期待が高まっているにもかかわらず、具体的に達成できているのはなかなかないというのが実情だと思います。真正性、あるいは調査研究成果にしっかり基づいて知的な発信をしていく機関が賑わいの場とセットになっているというのも、実はなかなか言うのは簡単ですができていないのが実情ではないかと思っています。そう言った意味で検討している金シャチ横丁第二期整備の博物館ゾーンの基本構想のかたちでできると、これはまさに日本にこれまでなかった新しい形のお城の見せ方、活かし方、学び方になっている。しかも、にぎわいゾーンと一緒になっていますので、まさに単に知的にお城を楽しむというだけでなく、名古屋の食であったり、多様な楽しみ方をセットで提供できる、体験していただけるということで非常に意義が大きいと感じています。

先ほど指摘があったとおり、わが国において、お城は今大変人気でありますし、世界的にも関心がありますが、お城を総合的に理解して展示するということが掲げた博物館が実は一つもない。非常にこれは大きな課題で、この点は非常に残念に思っておりました。しかし今回この構想に基づいて新たな博物館ゾーンができあがっていくということになりますと、まさにわが国のお城はどういうものであるか、世界で見た時、どういう特色や位置



づけになるのか展示で分かる、さらにわが国を代表する特別史跡名古屋城跡、まさに実物の真正性を持つお城とセットで体感していただけるということになります。これは特別史跡名古屋城跡の魅力を高め、名古屋城を基点に日本の城を理解し世界に発信していくという中で極めて非常に大きな役割を担うと確信しています。今回の概要版の中でも、新しい博物館あるいは金シャチ横丁の第二期整備ゾーンは、名古屋市内の歴史的な空間を訪ねる新たな拠点になっている、それをつなげるネットワークの要の位置を果たしていくことが与えられている、実はこれ今の視点で考えるとまず新しい博物館、そして名古屋城をご覧いただいて、木造の本丸御殿、そして近未来には木造の天守も再建されるということで、まさに日本のお城というものが天守、本丸御殿をセットで木造で開館できるのがここしかないということになります。そこをご覧いただいて、博物館で日本の城の全体像を見ていただいて、そこから各地の日本のお城をご覧いただくという、日本観光の歴史を中心とした非常に大きな要の場所になる。名古屋は空港もありますし、新幹線も止まりますし、リニア新幹線もまもなく開通するため、どちらにいくにも交通至便な場所ですから、日本の歴史観光、城を中心とするまさに名古屋こそがゲートウェイとなる、名古屋城が要の役割を果たす。日本全体の中でこの新しい博物館が果たす役割は書かれていないですけども、実は全国に関わる博物館になり得るのだと感じました。

**【事務局】** ありがとうございます。最初の点線ですが、これまで清須越以降の、近世期以降の名古屋城を取り上げようといったことに固執していたわけではないですけども、複数の方からそこより前だってあるよね、というご指摘をいただいて、名城前史という言葉盛り込んでます。その中で点線がずれてしまっていたのですが、今気が付きましたので修正いたします。肥前名護屋城の話もでたんですけど、あそこに行きますと名護屋城だけで完結するんですけど、あれ（名護屋城博物館）を見ることで、周りに陣跡といった素晴らしいものが残っていたり、天下普請で作り上げた景色がよくわかったり、ああいうものを作れるといいなと思っています。

**【事務局】** まず、今回の博物館ではガイドンス機能、展示機能もしっかりやっていきます。それに加えて調査研究機能、収集機能、こちらも大切だと思っていますので充実した施設をつくってまいりたいと思います。にぎわいとセットでという話がありましたが、場所が正門の前で金シャチ横丁もあるということですので、一体的に考えていきたいと思っています。日本の城のことがわかるというところがございますけど、名古屋城を通して日本の近代以降、近世以降の日本の歴史を学ぶということで、普遍性をもっていると思っていますし、他の城と比較しまして、名古屋の歴史をもっと深く知ることができると思っています。あとは天守と本丸御殿セットでとい

うところですが、今進んでいる整備事業と一体になって進めていければと思います。

**【佐々木委員】** 全体としてはよくできていると思います。特に博物館整備の中心的な部分で原則公営による運営と書かれていますよね。これはやはり調査研究を軸にしてといったところが一番大事なところですよ。ここは熊本城と全く違うものになる。そのあたりですね、名古屋の文化性の高さを世界に示す、それだけの研究水準を達していくということで結構だと思います。

**【事務局】** ありがとうございました。

**【田沢委員】** 基本構想としてここまできちんとまとめ上げていることは素晴らしいと思います。ただ、基本構想は基本構想という書類を作るためではなくて、その先へ進むということを考えますと、この後基本計画へ、最終的には実現へといくんだと思います。内容を見ますと盛り沢山でこれを全部盛り込んだものができるのだろうか？という気もしますが、基本構想としては当然このようなものかと思います。その中で、木下先生がさきほどおっしゃっていたように歴史文化観光という言葉が僕も上手く理解できない。文化観光という言葉の上に特別史跡として名古屋城がもってきた歴史というものを反映させるという意味で、単なる文化ではなく歴史性があるということを観光と結び付けようという特殊性があるものだと理解してきましたし、それが博物館ゾーンと名古屋城博物館の2つのコンセプトにつながることで大事なんだなと思っておりますが、この辺をもう少し整理した方がわかりやすいのかなという気がします。それと、将来的にはHP 何かで公開していくのしょうから、一般に示すために長い文章だとみんな追いつかないですし、短いいくつかの箇条書きになるようなものにどう収斂させていくのが大切になると思います。木下委員がおっしゃるとおり、頭を合わせて考えることが必要だと思います。実際に計画へ進んでいく段階でも、こういう内容の全部を見直しながらということではできないでしょうし、外の方に意見を聞くにも基本構想全部を読んでくれというわけにいかないの、本当に大事なものは何かというものを、背景、目的、そしてこれはどうなっていくのか、コンパクトにまとめたものがあったらいいのかなというふうに感じました。あとは、基本計画に移る段階では、これを実現するための人とモノが大事だと思います。今基本構想は箱をどうするか、地域としてゾーンをどうするかということだと思いますが、そちらにも目配せをしながらやらないと完全に浮いたものになると思います。基本構想が実際の計画と直結して見えるという形になっていくといいなと思いつつながら、基本計画の段階では実際の人と博物館史料としてのモノ、そういうことも視野に入れて進めていただければと感じております。以上です。

【事務局】ありがとうございます。本当におっしゃるとおりで、きちんとした博物館をつくっていくことが中心にはありますが、それを実現するためには、この先無数に考えていかなければいけないこと、特に組織的な部分、人の部分は次の段階に向け一番考えていかなければならないと思っております。ありがとうございます。

【大竹委員】先生方のご意見を踏まえて上手くまとめていただいて、私自身もこういったかたちで現時点ではイメージができるかなと感じて感謝しています。ありがとうございます。

先生方がおっしゃることをふまえて、これから計画段階ですけども、私ども商工会議所はですね、やはり観光という視点で注目しています。6ページの博物館にどんな機能、どんなレイアウトがあるのかなというところに関心があります。展示機能のところは常設・企画とございますが、常設はずっと同じ状態、企画は適宜変化をつけて展示するのですけれども、やはり企画展が面白くないとですね、飽きられてしまう。常設展だけでは館としての機能といいますか、繰り返し何度も来ていただく博物館になるためには、企画展の工夫が非常に大事だなと感じています。その意味では、6ページ右側の常設展示室のスペースは広いが、企画展示室は小さめかなと思います。もちろん全体のバランスを見ながらですが、企画展の工夫でもって来場者の方に飽きさせない、そういった工夫を期待したいなと思います。それが1点です。

それともう1点が、観光という視点でみると飲食と物販というのがはずせないと思うんですね。このレイアウトを拝見しますと、サービス機能というのはありますが、飲食物販がないのかなと。ここで整備ができなくても、こんなところがありますというふうにご案内ができて、来られた方が博物館を楽しみ、名古屋の食を楽しみ、お土産も買っていただいている流れになるように整理していただくと非常にありがたいと思います。

最後に質問ですが、観光という視点でいくと、左側のガイダンス機能の主な諸室のところは展望スペースとありますが、博物館に行った時に展望で何が見えるんだろうというところが気になります。外が見えるのか、あるいは館の中のレイアウトが見えるのか、外が見えて名古屋城の見える素晴らしい場所が確保されればすごく話題性にあふれると思います。城が見えるということであれば、展示スペースに期待をしたいなと思いますし、若い方がスマートフォンで投稿すれば話題にもなると思います。そういったところでうまく整備ができればと思います。

【事務局】博物館から名古屋城の眺望は確保したいと考えております。現状変更が難しいかもしれませんが、必要ならば江戸時代には存在しなかった植生の一部を伐採して眺望を確保したいと思います。眺望を博物館の魅力とした例

として、一つは高知城博物館を想定しています。展望ルームから大手門と天守が一つの視点で眺められる工夫は、高知城の魅力を向上させています。もう一つの例は、富山県美術館です。この館の屋上には現代アートの体験型展示を兼ねた遊具が設置してあり、無料で利用できる公園として楽しめると同時に、立山連峰の雄大な景観が眼前に広がることで眼下の富岩運河の景観と併せて富山を代表するビュースポットになっています。美術館への入館者はもとより、この屋上公園の存在が年間60万人の入館者を確保する要因にもなっていますので、まさに地域と博物館が一体化した成功例です。この2つの成功事例を一つの手本にしたいと考えています。

【事務局】 補足しますと実はあの場所、他の方からも言われたんですけど、あそこからお城を見通すと、間に桜並木があるんですね。時期によっては桜越しにお城が見えるということで、活用していけたらなと思っています。

【木下委員】 今富山県美術館の例が出されましたが、あれは本当に成功例で、もともと子どもの遊び場というか公園だったんですね。そこに美術館を作ることによってそれを上にあげていると。美術館と切り離してものすごく楽しい空間に変えたということですから人を惹きつけているんですね。それから近年の例だと、長野県立美術館は善光寺のすぐ隣にありますので、屋上で善光寺の大屋根を見せるという景観を売りにして、ある意味何もない屋上なんだけど、そこでイベントもできるような使い方をしている。

【事務局】 私も富山県美術館に行きまして、こういうのがあるといいなと考えておりました。補足しますと、私たちとしてはそこにいかに人を呼び込むか、やっぱり来てもらえないと知ってもらえないですし、賑わいを創出することでより人を呼び込めるということがありますので、いかに呼び込むかということが課題だと思います。その中で博物館を有料ゾーンにしたとしても、他に無料ゾーンをつくって、より子ども達を含めて来やすくするか、そういった工夫をしていきたいなと思っています。その中の一つとして、屋上を使って金シャチ公園、屋上公園のようなかたちにして人を呼び込み、そこから名古屋城の天守も見えろと思いますので、そこで写真を撮り発信してもらおう等、そういったことができないかなと思っています。

【事務局】 高さや密接に関連すると思うのですが、私共が見せたいのは、天守だけではなくて、特別史跡名古屋城跡全体であって、まさに縄張り、そういうところが見えるような空間、高さがあれば一番いいんじゃないかなと思います。

【千田委員】 大規模のものではないですけども、すでに整備が完了しているものとして、青森県の弘前城の二之丸にあるガイダンス施設が、大きなガラスの壁になっている中をガイダンス施設にしている、そのガラスをスクリーンに活用している、いわばガラスをスクリーン化して、建物が城内にあります

ので AR のようにして、定期的にそのガラスで武士たちが馬の鍛錬をしていたりとか、ちょっとしたテラスのようなものがあったんですが、テラスそのものは復元していないんですが、ガイダンス施設から外を見るとテラスが投影されてお殿様がお出ましになってそこを馬が駆けていくと、そういった仕掛けになっていて、なかなか上手くしているなど。目線の高さとかいろいろな問題があると思うんですけど、室内のところがもしあれば、そういったところも技術的に、現状の名古屋城の全貌をご覧いただくということを江戸時代の様々な建物や櫓が建っている姿が投影されるみたいなことができるかもしれないなと思って、眺望は是非実現してほしいなと思いました。

【木下委員】最近静岡市がつくっている歴史博物館も展望がありますが、敷地がすごく狭い。一方で建設の途中で遺跡がでてきたのでそれを保存するというをしている。現代と過去をつなげるという、どういう体験を博物館に実現させるかということの一つの答えかと思います。

【千田委員】静岡市歴史博物館ですが、1階は全部ガラスで引き戸のようにになっていて全開放が設計上はできると。それに加えて、発掘で慶長期の武家屋敷の間の道が出てまいりましたので、実物を1階の博物館内では展示するとしている。ただ、展示空間としては難しいというのが、本物を見せているので、博物館に入るとカビの臭いがする。展示環境としてはかなり難しい。ただ、今回の予定地も当然発掘をすれば歴史的なものが出てくるということですので、そういった意味では静岡市歴史博物館の取組というのは参考になると思いますし、お城を見ながら展示室に入ってくるころは参考になると思います。

【事務局】ありがとうございました。取り入れてまいりたいと思います。  
次の説明をさせていただきます。

#### ○資料1に基づき、第5章から第6章まで事務局より説明

【事務局】それでは、第5章 整備・運営手法についてご説明いたします。

ここでは、博物館と博物館ゾーン全体の整備・運営手法について、まず基本方針を掲げたうえで、それぞれの整備・運営手法の案を他事例も踏まえ、検討しております。なお、現時点では基本構想段階でもあることから、それぞれの案について優劣をつけたり方向性を決めたりするのではなく、あくまでも可能性のある案として複数案を記載しています。

まず博物館の運営手法についてですが、全機能に渡って公共が運営する案1、展示、収集保存、調査研究等の学芸的分野を公共、民間のノウハウ等を活かした企画運営ができるガイダンス、教育普及機能を民間が運営する案2、展示機能の中で、企画展示や屋上空間を民間が運営する案3を掲げ

ました。

また、博物館ゾーンの整備・運営手法についてもどの施設を公共が担い、どの施設を民間が担うかという観点から、整備手法として2案、運営手法として3案を掲げました。さらに、「周辺施設との連携強化」といたしまして、博物館ゾーンの運営に携わる事業者、既存飲食物販施設や第二期芝居小屋風多目的施設など、金シャチ横丁に携わる事業者、名古屋城の運営に携わる事業者及び名古屋城総合事務所が共通の目的意識を持って連携していく必要性について言及しました。

次に、「3 整備・運営手法に関する事例調査」ですが、ここでは全国的事例調査ということで、全国の博物館の種別、歴史博物館の設置者の内訳、指定管理者制度の導入状況、そして（2）PFI 手法の導入状況につきまして調査した内容を記載しております。

「4 サウンディング調査」ですが、ここでは先ほど述べました、整備・運営への民間参画の可能性に関して、実際に企業から聞き取った内容を記載しました。今後も民間事業者とのコミュニケーションを重ね、民間活力の積極的な活用につながるよう、民間のニーズや意見の把握に努めたいと思っております。

続きまして、第6章 基本計画策定に向けた課題についてご説明します。

本基本構想に続く、基本計画策定の段階においては、名古屋城博物館（仮称）を中心としたエリア一帯の整備の実現に向け、より具体的な検討が必要となるため、その内容について5点を掲げました。「城に学び、城と歩む」という博物館のコンセプトを実現する施設・展示計画の策定、「名古屋城から始まる歴史探訪のゲートウェイ」という博物館ゾーン全体のコンセプトの実現に向けた整備内容の具体化、事業予定地の決定、博物館として必要な機能と施設規模の確保、市民への周知や機運醸成、このような観点から、今後の取組みについてまとめております。

#### ○資料1の第5章から第6章までに基づき、質疑応答

【千田委員】さっきの静岡市のところで思い出したんですけど、お聞きしたいのですが、別途の建物として、駿府城の周りにランナーが非常に多いので、着替えたりシャワーを浴びたり、走った後にお茶を飲めるような施設を作っている。サウンディング調査の中にそういったものがほしいということは特に書かれていなかったんですけど、例えばお城を活用する、お城へ来るというのが、もちろん歴史を学んだり体験したりというのもあるんですけど、そういった活用は実際に名古屋城でもあるんじゃないかと思っておりますので、博物館の中なのか、にぎわいの金シャチ横丁の中なのかはあると思うんですが、そういったことも考えた方がよいのではないかと思います。

【事務局】 静岡市の駿府城の周りはいわれるとおり1周2km程度のランニングコースとなっていて、静岡市歴史博物館の反対サイドに着替えのできるランニングステーションのような施設があります。名古屋城に目を向けると、名城公園の中にはそういった施設があって、名城公園の中のランニングコースを走る人がはそこを使っているんですけど、実はこの金シャチ横丁構想の中にお堀の周りを周遊できるような施策はどうかということも入っています。ですので、走ったりすることもあるでしょうし、シェアサイクルとかお散歩でもよいのですが、そういったもののコースの一部として博物館ゾーンですとか正門、東門、金シャチ横丁、全部綺麗に周れるようなルートがあるとよいかと考えております。

【事務局】 今の補足なんですけども、せっかくなんでお堀周りとか、あるいは市役所や県庁といった重要文化財も見えるような体験の提供ができないかということで、周遊について、ランニングですとなかなか人が限られるかもしれませんが、アトラクションのような何かを加えてもっといろいろな人が見て周れるようなものはないか、今後検討していきたいと考えています。

【木下委員】 さきほど話題になった基本コンセプトの「城に学び、城と歩む」ですよ、どうしても博物館に人が来ていただくということで動いているわけだけど、博物館を使うという発想も1枚カードとして持っていてもいいんじゃないかな、と思います。それは無料ゾーンを設けて気軽に来てもらうとか、いろんなやり方があると思うんですが。教育活動にもつながっていくだろうし。観光客を対象に、名古屋について学ぶというだけではなく、そこにとどまらないというような、博物館を我々の暮らしの中でどう位置付けるかというのは、いろいろ可能性があるといいなと思います。美術館ももちろんそういうものを目指していて、やはりリピート率を高めたいと思うんですけど、動物園のパスポートはものすごい有効なんです。1年間の年間パスポート。たぶん東山動物園もそうだと思うんですが、パスポートを手に入れることによって、その動物園が自分の生活の中に組み込まれる、そういう感じは持ちますので、なかなか博物館ではそこまでいかないけど、ただ単に見学して学ぶだけではない使い方もあるんじゃないかと思います。

1つ伺いたいことがあって、前回の説明の中で指定管理者の比率が4分の1、25%ぐらいのうち、指定管理者を導入して直営に戻したケースというのはないんですかという質問をしたんですが、わかりましたか。

【事務局】 何点かあるということは確認できまして、事情が変わって戻した方がよいという判断になったりですとか、あるいは民間が自分たちでやるようになったりですとか、指定管理者を導入したにもかかわらず最終的に民間の運営になったという事例はございました。

【木下委員】博物館の、特に研究調査をきちっと維持していこうとしていこうとした時に、継続性の問題を必ず問われてくると思うので、慎重に考えていただければ。

【事務局】指定管理期間にもよりますが、通常ですと5年・8年・10年が一般的でしょうか。私自身、指定管理者の機関に務めておりましたが、あくまでも個人の感想としては、指定管理はこれまでの役所の縛りに捕らわれず自由な事業展開が出来る、人件費などが抑制できるとしてはいますが、実際、人件費は運営委託費に置き換わっただけで、金額的には節約になっておらず、何を実施するにしても行政ルールの下での自由というだけでした。何より、指定期間最後の一年は次の指定管理を受託するための仕様書作りで忙殺され、仮に5年の指定管理期間として受託していれば、まだ受託していない6年目の事業は正式に受託を受けるまでは計画することも出来ず、長期的な事業計画は事実上不可能で、柔軟どころかかなり縛りのある運営しか出来ません。また収蔵品の管理者が理屈の上では数年ごとに変更するわけで、安全・確実なる文化財保存の継続的な運営が出来ないといった弊害もあります。全て指定管理がダメというわけではありませんが、少なくとも大規模博物館施設において、文化財管理・公開という面ではすぐわなない制度であると、個人的には思っております。

【田沢委員】今のお話ですが、指定管理というのは、結局市から委託された業務をすることになるんですが、作品の収集の場合、収集したものは市のものとなり、そこを委託されているのはやはり不自然だと思うんですよ。積極的に作品を整えてこれから博物館をつくっていくという時に、そのものではないものを研究、調査するというのはかなり無理があつて。ある県の例では、県のを指定管理の美術館の方が収集するという中で、それを一回県に戻して現場管理という立場から説明をし、県が収集を決定するという流れになっています。これからいろいろ動いていく中で収集活動と委託業務、指定管理の整合性とか大変難しい部分があると思いますので。本来の所有者がやらなければいけないものってなかなか指定管理としての業務にはしにくい、特に最終年度なんかですとできませんから、長期的な計画は大変立てにくいんじゃないかと思えます。

【事務局】資料8ページの表に示していますが、新しい博物館を作るということで、その運営体制は、いままで名古屋市が持ってきた博物館に必ずしも縛られず、自由に議論しなければいけないだろうと考えておりましたけれど、屋内博物館の導入機能で、調査研究や収集保存というベーシックなところ、それから展示のうちの常設展示、学芸員が調査研究したものを展示する企画展示、ここまではやはり直営でやるというのは大前提で、そこから先はもう少しフレキシブルに考えるようにしても、すべての案について、そこ



まで直営でやるという案で整理しております。私としてはそういう前提という認識しております。

【田沢委員】これは金シャチ横丁と博物館ゾーンの整備ということですので、ちょっと離れるかもしれませんが、博物館に来ない人にインターネットなどで発信していくのも大変重要になってくると思います。このところに触れられていませんけれども、今のご時世から、積極的に、来ない人に対してもいろいろ情報を出す機能も、ゾーンとは違いますけれど、考慮していただいた方がよいという気がしました。

【事務局】ありがとうございます。コロナ禍でイベントができない中でネット通信を使って配信するというのは、一般的な話になったかと思しますので、これまでは動画配信が中心でしたが、リアルタイムな配信も重要だと思しますので検討していきたいと思っています。

【事務局】いかがでしょうか。全体を通じて少しコメントをいただきたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。

それではですね、これまで1年間やってきまして、今日いただいたご意見を反映させる、あるいは次への課題として残していくかたちで基本構想として整理していきたいと考えております。改めまして今年度やってまいりました構想を通じて先生方からむしろ将来の博物館に向けて、木下先生から一人ずつお話伺えればと思います。

【木下委員】先ほど田沢委員もいわれたんですが、これが基本計画になり、敷地が決まり物理的な条件が課せられてきたときに、どのぐらいの面積で博物館をつくるのか、これが一番大きな問題としてぶつかるだろうなと思いますね。先ほど展望という話がありましたが、高さ制限がありますよね。だから物理的なスペースが決まっていた時に、ここで盛り込んだ機能をどこまで守れるか、譲れない一線って何かというのをぜひ考えて進めていただきたいなと思います。盛り込み過ぎという言い方はその通りかもしれないんだけど。そうしたときに、やはり城郭の文化にまず目を向ける場所である、その中の名古屋城、というこの視点は外せないと思います。そのことによってこういうユニークなものが生まれるはずなので。名古屋城だけの博物館ではないという、このところがやはり譲れない一線だろうなと思いつつながら、この懇談会に出てまいりました。

それからあと1点、さきほど議論になってなるほどなと思ったんですが、前史という考え方。前史ということは、この博物館はどこからどこまでを扱う博物館なのかということを考えさせられました。早い段階から、近代を視野にいれよう、あるいは現代を視野にいれよう、というようなことを議論してきたと思います。あれはその前史に対して、そのあとの歴史、後史としては捉えていなかった。そうするとこの博物館が問題にする名古屋

城というのは、ここにある、ここに築城され、姿を変え役割を変えながら今もある、その名古屋城を問題にする博物館なんだと今捉えている、そしてたら確かに別の場所にあった戦国期を前史という言い方ができるかもしれないけど、博物館が何を伝えていくのかという大きな問題につながってくる。どこからどこまでを視野に入れるのか。それを前史と呼ぶかはまた別問題なんですけれども、そういうことが博物館をつくり、運営する側にその自覚が問われると思います。

ぜひ、これは方向性を示すことだと思いますので、実現に向けてご努力いただきたいと思いますので健闘を祈るということで終わりたいと思います。

【千田委員】1年間議論に加わらせていただいて、議論を反映した素晴らしい基本構想をまとめていただき、事務局のみなさんに心から感謝を申し上げたいと思います。資料の1ページに本事業が必要とされる背景というところでまさに要点がまとめられていますが、現在名古屋市では、天守の木造復元を中心とする特別史跡名古屋城跡の本格的な整備を計画しておられます。ここにもうたっていますように、本質的な価値というのを理解していただいて発信していくことは、一番大きな基本のコンセプトだと思いますけど、まさにこれは国の特別史跡を整備していくときに求められる要件の1つであり、これから基本計画になって、実施計画になってという中で、名古屋城全体の整備を進めていこうと取り組んでいる名古屋市の本気度が、この博物館計画がどのようなもので最終的に着地するのかに現れてくると思います。構想は立派だったんだけどなとなってしまうと、名古屋城の本質的な価値を活かして、天守の木造復元をはじめとした大整備、これは今まで我が国の城跡ではここまでの大規模なものはありませんでしたので、まさに画期的なものでありますが、それを支えていく博物館でもあるということで、ぜひ、最終的にちっちゃいものにならないといいなと願っています。それと資料を1枚めくりますと、主要観光資源ということで、名古屋に行ってみたいですかというアンケートを取ると、名古屋に行ってみたい人が少ない問題というのがありますけれども、その中でも名古屋城は認知度が圧倒的にあると、つまり名古屋が魅力的な街であることを示すためには、やはり名古屋城っていかに重要な位置を占めていて、その名古屋城の歴史的な魅力、これを示すということが非常に求められている。じゃあ、名古屋城は魅力がないかということ、実はすごい歴史的な価値がありますので、これも先ほど述べましたように、史跡整備という形で魅力が顕在化していく。しかしその顕在化していくものをどのような歴史的な意味があるのかを博物館の展示で十分理解していただいたからこそ、御殿にせよ天守にせよ、あるいは石垣にせよ、その価値を体感していただけるということだと

思います。名古屋の中でですね、名古屋城が魅力的な場所になるということが名古屋のまちのイメージ、それから名古屋の観光でも極めて大きな位置を占めていると思いますので、その点でも、この基本構想をいかに実際のできるところまで繋げていくかということが、これからみなさんのすごく大事なお仕事ではないかと思います。ぜひ、それを期待して最後の送る言葉にしたいと思います。よろしく願いいたします。

**【田沢委員】**やはり名古屋城は大変魅力的なものであり、史料として城のつくりも残っている。第二次世界大戦で焼失するまでの記録もありますし、写真もあり、かつ御殿の本来のものが残っている、他にはない唯一無二のところで、うまく使えるようになればと思います。特に本物の障壁画は、他にはない貴重なものです。これをうまく博物館の基本計画で活かせる形にもっていけないか、これはいろいろ難しい点もあるかとは思いますが、それを活用した博物館ができるということは、まさに他所にはできないことだと思います。また大変よく残っていた名古屋城の天守の事物もございしますので、他にはないものを沢山持っていることをうまく利用して、良い博物館ができればと考えております。今後とも頑張ってくださいと思っています。ありがとうございました。

**【大竹委員】**ありがとうございました。お世話になりました。先生方から大変貴重なご意見の数々をお聞きすることができ感謝申し上げます。

考えてみますと、名古屋市に関係する大きな動きとして、名古屋城駅が出来たこと、熱田神宮という名前がついた駅が2つ出来たこと、これ今年なんですね。本質的な価値とか本物に触れられる、本物を学べるという部分で名古屋城エリアはすごく可能性があって、観光するところが無いんじゃない、むしろ絶対はずせない、これは市民の方だけじゃなく、外から来られる方、海外の方も含めはずすことのできない素晴らしい所だと思います。それが今回の名古屋城博物館の整備によってさらに強化され、一大スポットになっていただくと非常によいのかなと思います。商工会議所は来年度、熱田神宮周辺に注目し、ある事業をする予定なんです、名古屋城と熱田神宮は本町通で繋がっていますので、今まで都心部という名駅、伏見、栄になってしまっていたんですが、名古屋城、熱田神宮ということで、外から来られる方が絶対はずさず観光し、消費し、帰っていただけるように、活性化していきたいとこのように思っています。よろしく願いします。

**【北折委員】**お世話になりました。ありがとうございました。先生方からいろいろご意見拝聴し非常に勉強になりました。

観光のことについて、若干ちょっとお話しさせていただきたいなと思っ  
ていまして、特に最近、観光といえましても今までの見るだけの観光ではな

くて、何人かの先生からもご指摘がありましたけれども、どんなことが体験できるのか、非常に重要視されていると思います。観光客のみなさんもそこに行くことでどんな体験ができるのか、といういわゆる体験コンテンツを重視される傾向が非常に大きくなってきている。今回の新しい博物館の基本構想でまとめていただいている中で、ここの博物館として、ここの博物館ならではの、あるいはここの博物館でしかできない体験コンテンツ、といったものを博物館自ら造成していただいて、観光客のみなさんに提供していただくことが非常に重要ではないか、そういった役割もあわせて果たしていただくことで一層観光客の増加にも結びついていくのではないかなと思った次第です。ただ、博物館だからといって、館内だけで狭く考えて処理する必要は全くないわけで、名古屋城全体のエリアとしてこんな体験ができるんだということを主導的な立場で担っていただけるようなそんな博物館になってほしいなと思います。

あとは最後に、木下委員からもおっしゃっていただいたんですけど、博物館を使うという発想のお話が出ていましたが、海外の方だとユニークベニューで、国際学会や会議が終わった後、例えば、ディナーやパーティーみたいなものを、博物館施設や歴史的建造物の中でやるケースが非常に多く、そういったものが学会誘致の1つの目玉になるというケースもございます。本当は木造天守や本丸御殿の中でパーティーをさせていただけると一番素晴らしいんですが、今度新しくできる博物館についてはフリーハンドで基本構想からこういった形で考えていただいているということで、中でパーティーをできるような、ユニークベニューとして活用できるような施設であってほしいなとそんな風に思いました。京都の二条城や金沢城の五十間長屋はパーティーでかなり使われていると聞いていますので、そういった活用ができるといいかなという風に思います。いろいろ勉強させていただきありがとうございました。

**【木村委員】** 博物館関係者として少しお話させていただきたいと思いますが、今日の議論を聞いて思ったんですけど、博物館の責務として、広く国民に開かれているべきとする反面、専門家や研究者に対し有益な機関でなくてはならない、ということは戦前の研究者も言っていたようで、新しくできる名古屋城博物館は、そのテーマに加えて今日話題になった歴史と文化観光とをミックスするという新しいテーマがかぶってきた。当然、法改正もありますが、そういった意味で時代を先取りする、リーディングケースになる博物館になるのだろうなという感想をもちました。なかなか困難なことが多いでしょうけど、やりがいのある一生のプロジェクトではないかなという感想でございます。そうしたことを考えると、これからは、限られた面積だとか限られたマンパワーとか予算とか、その中で現実的な葛藤が待ち

構えていると思うんですけど、そういった時に6ページの必要な機能と諸室をまとめているところがありますが、ここは一番のポイントになるんだろうなと。ここが事務局の方によって一枚岩になると、必要な面積だとか携わるスタッフは市の職員なのか民間の方なのか、おのずと導かれていくんだろうなと、今日いろいろな先生方の話を聞いていて思いました。

最後に1点ですけど、8ページの案1、案2、案3といったところがありますが、私が気になっているのは教育普及機能でございます。案2、案3は民間参画となっておりますが、下3つを担う公共がかなりコミットしなければ、教育普及機能は適正にいかないだろうなと。最新の調査研究を教育普及に反映させるのはどうしても必要かと思っておりますので、感想として申しました、以上でございます。

**【事務局】**先生方、オブザーバーの皆様方、あたたかいご意見、多くのご指導ありがとうございました。最後になりますけど、名古屋城総合事務所長よりご挨拶を申し上げたいと思います。

**【事務局】**ほんとに今日は内容の濃い懇談会を開催でき、ほんとうに勉強になるとともにありがたいなと思っています。金シャチ横丁の基本構想ができたのが平成24年、私実は24年当時に担当の課長をしております、その頃に基本構想を作ったときには、確か展示コーナーを金シャチ横丁の一角に作りますという、展示のイメージだけがあったはず、にも関わらず4月に戻ってきたところ、博物館を作るという話を聞いて耳を疑いまして、いつの間にそんな夢のような話になったんだと。今日、名古屋市の中で博物館を担っているのは教育委員会の傘下であり、それを観光文化を主軸とする局で博物館をつくるという発想をもとに予算がついた、これは大変重要な問題だと。むしろどういう博物館をどういう目的でつくるのか、きっちりとこれから考えていかなければならないと昨年の4月からスタートを切ったところでございます。そういったところからですね、かなり議論を重ね、構成員とオブザーバーの皆さまの粘り強いご指導の中で少し形が見えてきたかなと。一方でこれを具体的な形にしていく上で、さまざまな課題がこれからもあります、引き続き先生方に折に触れてご指導頂戴しながら、なんとか実現に向けて取組みをたゆまず進めてまいりたいと思っております。名古屋市にとって名古屋城はやはり原点であるという思いがあり、その価値をうまく表出できていないのではないかとこのころが、これから我々が取組みを進めていく動機であると考えております。それから、日本の城郭に関する情報のスタートラインとっていただけるような場所になるよう、木造天守の復元とあわせて、博物館構想について表裏一体のものとしてしっかり進めてまいりたいと思っておりますので、引き続きご指導賜りますようよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、挨拶とさせて

いただきます。

【事務局】 はい、それでは本日予定していた内容は以上でございます。これを持ちまして、博物館ゾーン整備基本構想検討会懇談会を終了させていただきます。1年間にわたりまして、誠にありがとうございました。